

兵庫県瀬戸内海地区における林崎漁業協同組合の資源管理協定

協定締結日 令和6年1月1日

(目的)

第1条 本協定は、林崎漁業協同組合に所属する漁業者によって漁獲される水産資源の管理に関して、当該水産資源の資源管理の方向性の達成を目的として、本協定に参加している者（以下「参加者」という。）により、当該水産資源に関して自主的な資源管理の目標を定め、当該資源管理の目標の達成のために具体的な取組を行うことで、もって当該水産資源の保存及び管理を図るものである。

(本協定の対象となる漁業の種類、水産資源の種類及び水域)

第2条 本協定の対象となる漁業の種類、水産資源の種類、水域は、それぞれ次のとおりとする。

	漁業の種類	水産資源の種類	水域
(1)	小型機船底びき網漁業	まだい まだこ はも	瀬戸内海東部系群 瀬戸内海兵庫県周辺海域 瀬戸内海兵庫県周辺海域
(2)	機船船びき網漁業(瀬戸内海機船船びき網漁業を含む)	しらす いかなご	瀬戸内海兵庫県周辺海域 瀬戸内海東部系群
(3)	たこつぼ漁業	まだこ	瀬戸内海兵庫県周辺海域

(資源管理の目標)

第3条 本協定における資源管理の目標は、次のとおりとする。

水産資源の種類	水域	資源管理の目標
しらす	瀬戸内海系群	兵庫県資源管理方針別紙3-3第2に定める資源管理の方向性
いかなご	瀬戸内海東部系群	兵庫県資源管理方針別紙3-2第2に定める資源管理の方向性
まだい	瀬戸内海東部系群	兵庫県資源管理方針別紙3-1第2に定める資源管理の方向性
まだこ	瀬戸内海海域	兵庫県資源管理方針別紙3-6第2に定める資源管理の方向性
はも	瀬戸内海海域	兵庫県資源管理方針別紙3-7第2に定める資源管理の方向性

(資源管理の目標の達成のための具体的な取組)

第4条 前条の資源管理の目標の達成のための取組は、それぞれ次表に掲げるところにより行うものとする。

	漁業の種類	具体的な取組	その他の取組
(1)	小型機船底びき網漁業	総代会もしくは昼市委員会で決定する休漁日に加え、以下のとおり休漁日を設ける。  毎週日曜日	【作業時間制限】 1人乗り:13時間以内 2人乗り:14時間以内  【漁獲物制限(再放流対象)】 マガイ : 全長 13cm 以下 ヒラメ : 全長 25cm 以下 マコガレイ : 全長 16cm 以下 メコガレイ : 全長 16cm 以下 イコガレイ : 全長 16cm 以下

			ガザミ : 甲幅 12cm 以下、 抱卵個体 スズキ : 全長 50cm 以下(※) (※)12月1日から 翌1月31日まで
(2)	機船船びき網漁業 (瀬戸内海機船船びき網漁業を含む)	以下の休漁日を設ける。 (イカナゴ漁期) 週休1日(日曜)  (シラス漁期) 週休2日(日曜・水曜)	<b>【操業時間制限】</b> 播磨灘船曳網漁業連合会で協議決定する操業時間の申し合わせ事項を遵守する。 <b>【操業期間制限】</b> 播磨灘船曳網漁業連合会で魚種に応じて協議決定する適正サイズ漁獲のための解禁日や翌年の産卵親魚を残すための終漁日設定等の操業期間に関する申し合わせ事項を遵守する。
(3)	たこつぼ漁業	(体重制限による小型個体保護) まだこ体重 200g 未満の採捕禁止 (産卵個体の保護) 産卵が確認されたたこつぼの再放流	

(取組の履行確認に関する事項)

- 第5条 前条の具体的な取組の着実な実施を担保するため、全ての参加者に対して、少なくとも年1回、前条の取組の履行確認を行うこととする。
- 2 全ての参加者は、前項の履行確認に協力するものとする。
- 3 第1項の履行確認は、兵庫県に設置された資源管理協議会において行うこととする。
- 4 第1項の履行確認においては、前条の具体的な取組については、それぞれ次表に掲げた証拠書類等を基に確認することとし、その他の取組については当該取組を確実に履行した旨を確認することとする。

	漁業の種類	履行確認における証拠書類等
(1)	小型機船底びき網漁業	市場伝票、予め設定した休漁日・期間の確認できる資料、取組証明等
(2)	機船船びき網漁業 (瀬戸内海機船船びき網漁業を含む)	市場伝票、取組証明等
(3)	たこつぼ漁業	市場伝票、取組証明等

(漁獲量等の漁獲関連情報の報告)

- 第6条 全ての参加者は、漁業法 (昭和24年法律第267号。以下「法」という。) 第90条第1項の規定に基づき、漁獲量及び漁獲努力量、資源管理の状況、漁業生産の実績等を都道府県知事に報告するものとする。
- 2 全ての参加者は、協定の実施のために必要とされる履行確認や効果の検証等の情報を積極的に都道府県、資源管理協議会に報告するものとする。

(取組の効果の検証に関する事項)

- 第7条 第5条の具体的な取組の対象魚種の保存及び管理に対する有効性を確認するため、本協定の有効期間の2分の1を経過した時及び当該有効期間の終了時に、本協定の取組の効果の検証を行うこととする。

- 2 前項の規定にかかわらず、対象魚種の資源評価が行われた結果、資源管理基本方針（令和2年農林水産省告示第1982号）及び兵庫県資源管理方針において重大な変更があった場合には、当該変更があった日から1年以内に検証を行うこととする。
- 3 前2項の検証は、直近の資源評価の結果及び前条で報告された情報その他参考となる科学的知見に基づき、兵庫県に設置された資源管理協議会において行うこととする。

（協定に違反した場合の措置）

第8条 参加者による資源管理の目標の達成のための具体的な取組、当該具体的な取組の履行確認への協力その他の本協定及び本協定の規定に基づく要領、規約等の内容に対する違反の疑義が認められた場合には、当該違反の疑義の内容について兵庫県に設置された資源管理協議会に報告し、調査及び協議することとする。

- 2 前項の調査及び協議の結果、違反したことが明らかになり、かつ、その違反の程度が重大なものであった場合には、当該参加者の本協定の遵守が要件となる国及び兵庫県からの補助を受けることができないこととする。この場合において、当該補助を受けることができない期間は、違反をした年度とする。

（協定への参加及び協定からの脱退）

第9条 全参加者の代理権を有する者（以下「協定代表者」という。）は、本協定に参加しようとする者に対して、参加届出書により参加する旨の届出を行わせるものとする。この場合において、本協定への参加は、協定代表者が当該参加届出書を受理した時点で行われるものとする。

- 2 参加者の住所又は氏名若しくは名称に変更が生じたときは、当該参加者は、協定代表者に対して、変更届出書により当該変更の内容の届出を行うものとする。
- 3 参加者が本協定を脱退しようとする場合には、当該参加者は、協定代表者に対して、脱退届出書により当該協定からの脱退を申し出るものとする。この場合において、本協定からの脱退は、協定代表者が当該脱退届出書を受理した時点で行われるものとする。

（協定の有効期間）

第10条 本協定の有効期間は、協定締結の日から5年間（令和6年1月1日から令和11年12月31日まで）とする。

（あつせんすべきことを求める場合の手続き）

第11条 法第126条第1項の規定に基づき兵庫県知事にあつせんすべきことを求める議事は、参加者の3分の2以上の多数で決する。

（その他）

第12条 本協定に定めのない事項については、参加者間で協議し、決定するものとする。

附 則

本協定は、令和6年1月1日から施行する。